

学校教育のこれから

市では、これからの子どもの人口減少を見据えるとともに、変化の激しい社会の中にあっても前向きに、自分らしく生き抜いていくための力を育む教育環境の整備（学校の再編）を検討しています。

問(市)学校教育課

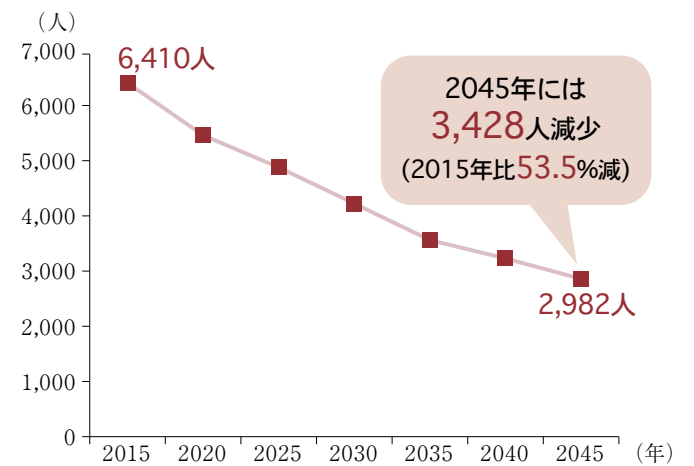
平成30年度 市立学校の児童・生徒数

■全学年2学級以上
■学年によっては1学級がある
■全学年1学級

小学校	全児童数(人)
三 樹	332
平 田	334
三 木	313
別 所	315
志 染	66
口 吉 川	56
豊 地	54
緑 が 丘	323
緑 が 丘 東	433
自由が丘	457
自由が丘東	286
広 野	447
中 吉 川	81
東 吉 川	63
上 吉 川	36
みなぎ台	60
合 計	3,656

中学校	全生徒数(人)
三 木	359
三 木 東	394
別 所	143
志 染	45
星 陽	43
緑 が 丘	381
自由が丘	416
吉 川	136
合 計	1,917

▼三木市の子ども(5~14歳)の人口予測(10学年分)



出典：国立社会保障・人口問題研究所

学校の小規模化

現在、全学年が1学級（クラス替えができない状態）の学校は、小学校7校、中学校2校であり、とりわけ小学校では、ひと学年の児童数が10人を下回る学校がある。また、三木市の子ども人口が27年後には半数以下になるという国の予測もあり、今後、さらに学校の小規模化が進んでいくことが予想されます。小規模校は、きめ細やかな個別の対応がしやすいことや児童・生徒にとって活躍の場が



多いことなどのメリットがあります。一方、多様な考えに触れながら行う学習や集団で行う教育に制限があることなどのデメリットがあります。

学校は、子どもたちが多様な意見に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて社会性や人間性を育み、一人ひとりの資質や能力を伸ばす集団での教育を行う大切な場所であると考えています。

今後の進め方

現在、保護者や地域住民、学校関係者で構成された地域部会を8つの中学校区で設置し、意見交換会を実施しています。また、保護者や地域住民の方を対象とした説明会など、様々な機会にご意見をお伺いしています。その中で出た意見を、学校再編検討会議や総合教育会議で検討を繰り返しながら、今後の方針を決定していきます。

なお、地域部会での意見や会議の議事録などは、市ホームページに掲載しています。



ホームページはこちら

学校の再編を検討

市では、学校の統廃合を繰り返すのではなく、その先にある道筋を明確にするため、学校の統廃合とともに、小中一貫校や義務教育学校への再編を検討しています。学校や児童・生徒、地域の状況を十分に検討しながら、時間をかけて進めていきます。

しかしながら、小規模化が進み、学習や行事、部活動などに制限が多い志染・星陽・吉川中学校区については、喫緊の課題として、早急に検討していきます。



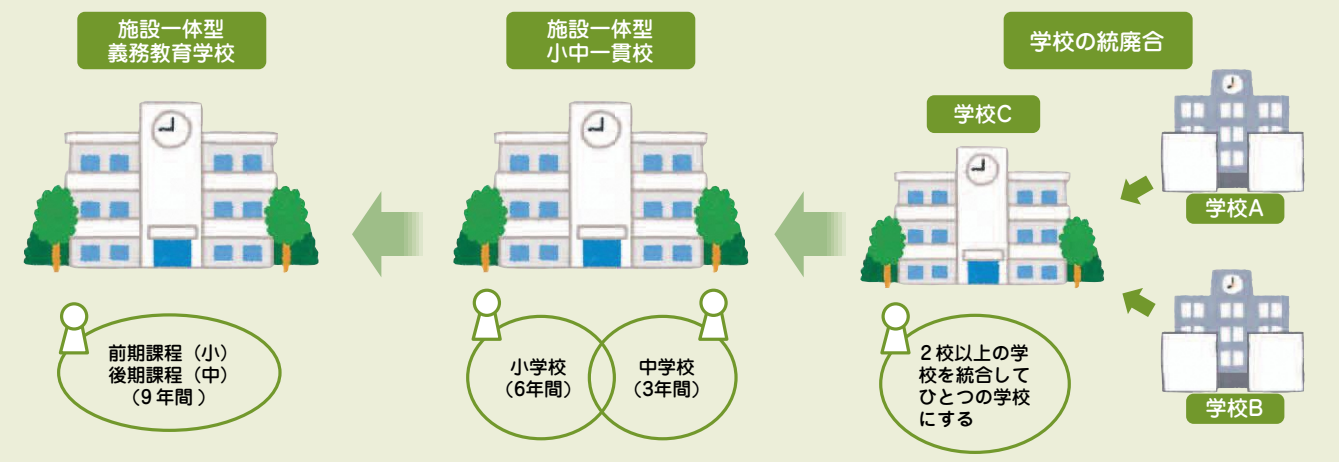
○小中一貫校とは

小学校と中学校が情報交換や交流を行い、円滑な接続をめざし、小中一貫で教育を行う学校。

○義務教育学校とは

小中一貫校がより進んだ形で、小学校と中学校が完全に一体化しひとつの教職員集団が9年間にわたり教育を行う学校。

▼学校再編案のイメージ



三木市がめざす教育

市では、1学年2学級以上を基本とした一定の集団規模の中で、小中一貫による教育をめざします。上級生が下級生をいたわり、支援する場面が増えるなど、多様な人とのふれあいの中で、社会性や人間性を育みます。また、小・中学校の教職員による交流や授業改善がさらに進むことで、生活規律の定着や学力向上が期待できます。落ち着いた学校生活の中で、子どもたちが生き生きと学び、活躍できる学校づくりを進めてまいります。

○学校再編検討会議とは

学識経験者、保護者、地域の学校の代表者が、学校再編について協議し、市に意見を述べる有識者会議。

○総合教育会議とは

市長と教育委員会が教育の重要な事柄について協議し、決定する会議。